

CTOメッセージ



私は自らの経験で学んだ
「Agility(俊敏)」が、オリンパスの
課題の解決に役立つと
信じています”

執行役 CTO(最高技術責任者)
アンドレ・ローガン

CTOとしての新しい役割はスタートアップ企業の 特性を取り入れること

私は、オリンパスのR&Dチームをより進んだ組織へと変革させることに挑戦できることを誇りに感じています。

オリンパスは、2004年にベルリン近郊のスタートアップ企業 Celon社を買収しました。当時Celon社のCTOだった私は、この買収を通じて、オリンパスに入社しました。Celon社は現在、オリンパスのエネルギーデバイスの技術の牽引役となっています。私は物理学を専攻してきたので分析的思考を好み、外科分野や治療機器事業における技術的な知識と経験が豊富にあることから、CTOとして組織に貢献できるものと考えています。

私は長い間、日本やドイツ、そしてアメリカの優れた文化的特性を理解し、それぞれの国で最高の成果を上げられるよう取り組んできました。そして、スタートアップ企業での経験で得た学びの一つは俊敏性が非常に大切であるということです。私は迅速な意思決定プロセスの重要性を学ぶことができましたので、CTOとしての新しい役割はこのようなスタートアップ企業の特性を少しでも当社に取り入れることだと考えています。

R&Dチームの強みと挑戦

俊敏性は、研究開発で何を実現しようとしているかをわかりやすく示すことでお客様との信頼関係を構築することや、各地域での製品承認にかかる時間を短縮することなど、当社が抱えるいくつかの大きな課題を克服するために役立つと考えています。例えば、QARA(品質保証・法規制対応)などの専門的な機能を含めたチーム全員が、プロジェクト初日から参画することで、プロセスを効率化し、認識の不一致を早期に発見できるようになります。オリンパスの強みは、お客様と良好な関係を持ち、お客様のアンメットニーズを把握していることです。当社の

技術者は医療従事者と直接接点を持ち、手技の立ち会いを通して、アンメットニーズを技術的な方法で解決します。

一方で当社はこれまで、すべて自社開発で対応しようとしてきました。しかし、私としては、外部との協業が将来の成長への近道だと考えており、今後は戦略的パートナーとの協業や、近年実施しているM&Aのように製品や技術を外部から取り込むことを検討する必要があります。

オリンパスにおける5つの外部課題

CTOの立場から、当社における5つの外部課題についてお話しします。まずはデジタル化です。例えばインターネットやクラウド接続、当社製品の病変検出支援機能、診断支援機能をさらに向上させるAI等が挙げられます。次に、医療コストの効率化と、医療の価値に焦点を当てることです。すべての新製品で臨床戦略を策定し、顧客にその価値の科学的根拠を明示することが重要です。続いて、「アジャイル開発」と、イノベーションサイクルを短くすることを課題として挙げたいと思います。新しい技術やイノベーションが飛躍的に発展する中、「アジャイル開発」のプロセスを導入し、イノベーションにおける競争力を維持することは私の使命だと捉えています。

また、サプライチェーン全体でESGを重視したいと考えています。R&Dチームでは、発売する製品が持続可能な経済に貢献できるよう取り組みを推進していきます。

最後に、組織の健全性にも注力します。私たちは、技術職の女性リーダーのための支援プログラムを開始しており、今後数年間でダイバーシティとインクルージョンを強化します。